

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1072100645		
法人名	有限会社すわ福祉ネット		
事業所名	グループホーム さちの里		
所在地	群馬県高崎市金古町987-1		
自己評価作成日	令和3年11月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	令和3年12月7日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、住宅街と田畑が周囲にある静かな環境に立地している。草木や樹木が植えられており、ホーム内に居てもお花見ができたり、柿やみかんが取れて食卓に並べられたりすることもある。また、日常、介護予防の為、散歩、運動を積極的に取り入れている。毎日、ラジオ体操を始め北国体操や365歩のマーチ体操を行っている。また、集団リハビリ、個人リハビリにより下肢筋力の低下予防やリズム体操などで気分転換も図られている。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

毎朝の申し送りにおける日々のケアの振り返りを通して理念や運営方針などの共有に努め、理念に沿ったケアが提供できるよう取り組んでおり、また、目標管理の取り組みでは面談などにより職員意見を聞き取り、ケアへの反映のほか就業環境の改善などに努めている。介護記録ではケアプランのサービス内容と連動させた記載とすることで、ケアプランの支援が日々のケアに反映されているかどうか確認しやすいようになっており、また、気になった点などはケアマネージャーがその都度「ケアプラン検討記録」に記載し計画の見直しにつなげている。災害対策では、利用者のネームプレートを居室入り口に用意し、災害時避難する際には利用者に首にかけてもらうことで避難状況が確認でき、その後の見守りにもつながるよう工夫しており、また、現在、事業所としての風水害に対する対策も検討されている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者が地域の一員として生活できるように運営理念の中に規定している。全てのスタッフは、その理念を共用して生活を支援している。	毎朝の申し送りの中で、理念や運営方針を職員が交替で読み上げ確認し共有に努めており、職員は理念に沿って、利用者が自分の家庭にいるように感じ安心して楽しく生活できるよう支援にあたっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症予防のため現在は、閉ざされている。	コロナ禍のため、地域との交流の機会はほとんどないが、近隣への散歩については、地域の人が声をかけてくれたり言葉を交わしたりすることで、地域の人との関係でお互いを知る機会となると捉え、積極的に取り入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	個々の相談に対応している。また伴走型認知症相談にも参加して当番日には対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染症予防のため昨年は一度も開催できませんでした。今年度もまだ開催していません。	構成委員は区長、民生委員、家族、利用者、市職員、職員等であるが、コロナ禍のため昨年度以降対面での開催ができていないので、委員には入居状況や活動状況の報告を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	消防署との連携、介護保険担当者との連絡及び調整に取り組んでいる。	担当者顔見知りの関係となるよう手続き関係の書類はなるべく持参し、その際には、運営推進会議開催の可否などに関する相談や空き情報などの情報交換も行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内で学習の機会を設け周知を図っている。現在、身体拘束は行っていない。	毎朝の申し送りには、拘束がなかったか確認し合っている。言葉遣いに関してはスピーチロックとしないよう特に注意し、利用者が今、何を思っているかを観察と傾聴により把握し、拘束しない方法を職員間で考えながらケアにあたるよう努めている。年2回所内研修も行われている。	身体拘束適正化委員会は職員のみで行われているが、外部の関係者も加え、そうした人達の意見も反映させることができるような体制を期待したい。また、職員に対しては所内研修だけでなく、外部研修にも参加できる機会を設けることを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で学習の機会を設け周知を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内で学習の機会を設け周知を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文章と口頭にて十分な説明を行い、承諾も得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談・苦情の窓口(苦情箱も含む)を設置している。また、契約時に他の苦情窓口も紹介している。また、月一支払い時や電話等で意見を聞いている。	家族から意見や要望を聞けるよう、家族が利用料支払いのため来所する前に、事前に電話でその旨連絡するとともに、来所の際には利用者の日々の生活の様子を伝えながら、事業所の運営面に対する意見や要望なども聞いているが、意見は特に出されない状況である。	家族には月1回の利用料支払時に意見や要望を聞いているがなかなか意見が出ないことや家族代表が構成委員になっている運営推進会議も開催できていないので、よりよい事業所運営となるよう家族から意見や要望を聞き取るための工夫した取り組みを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年度の始めに抱負やチームケアの在り方などの意見を書面に書いてもらい、個別に意見を聞く機会を設けている。職員会議や個別に意見や提案を聞く機会を設けて運営に反映させている。	目標管理における年2回の個別面談では、職員とともに取り組みを振り返り次に生かす事ができるよう取り組んでおり、職員会議でも就業環境に関しての意見や要望を聞き、休憩時間の変更や夜勤者の業務における負担軽減などにつなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、各職員が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備・向上に努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外で研修を受ける機会を設けている。毎朝、ケアワーカーとしての心得を読むことでケアの方向性を確認、周知するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同事業所間による伴走型認知症相談に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネを中心にアセスメントを行い、生活上の課題・問題を把握し、そこからの要望等を尊重しながら良好な人間関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントで得られた情報・課題を把握し、家族の思いを尊重した関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の面接時に確認できた課題に対して、課題の解決に向け、他のサービス利用も含めた相談・援助活動を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者が生活の中心であると認識し、生活を支えあうような人間関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との対話を密にし、要望・ニーズを受け入れ、協働で入居者を支え合う関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染症予防のため窓越し面会や短時間、少人数でのソーシャルディスタンス面会を行っている。	コロナ禍で支援が難しい中でも人と接触しないよう注意しながら、馴染みの場所にドライブに出かけたり、初詣や花見に出かけたりなど支援にあたっている。また、家族や知人などが訪れた際には窓越しの面会としているが、利用者の日々の様子が分かるよう写真を渡すなど配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士がお互いを尊重し、楽しく生活できるように人間関係を調整している。グループワークやレクリエーション等の集団活動で支え合いが認められている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も相談・援助活動を行った。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや気持ちを把握して生活を支援している。訴えが困難な場合でも、入居者の視点に立ってニーズの把握に努めている。	日々のケアの中でも常に利用者の変化を観察し、気持ちの表出があり意向などを把握した場合は、申し送りや介護記録日誌、業務日誌で職員間の共有を図り、必要があれば介護計画に反映できるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の暮らし・介護情報を把握し、生活を支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	健康面・生活内容・心身の状況等を多面的に把握し、それを記録化している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族の来訪時には、暮らしぶりを報告し、意見や要望を伺い反映させるようにしている。また、介護計画の作成過程にスタッフの意見・アイデアも入れている。	介護記録に介護計画のサービス内容の項目を記載することで、計画に沿って対応されているかが確認しやすい工夫されている。1ヶ月ごとにモニタリングが行われ、利用者に変化があった場合には「ケアプラン検討記録」に記載し、健康記録などの内容も踏まえ3ヶ月ごとの見直しにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活内容を個別計画に具体的に記入している。業務・介護記録日誌を活かし、口頭と文章で情報の伝達を行い、ケースによってはカンファレンスを行ったり、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	認知症介護の実務を活かした相談・援助活動を行っている。また、共用型の認知症対応型通所介護サービスも利用できる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民・民生委員・ボランティア・消防署等より協力を得ながら支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族が希望されるかかりつけ医を継続できるように支援している。	ほとんどが協力病院の医師をかかりつけ医としており、往診が原則4週に1回行われ、その際には利用者に気になる点があれば往診日の朝には状況を電話で伝えるように対応している。利用者が発熱した際などは看護師に相談し助言を受けるなど、連携しながら支援にあたっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院の看護職と情報交換を行い、助言を受けながら支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と家族、ホーム側で早期退院に向けて十分な話し合いを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の介護については、本人や家族の希望を尊重し介護を行う旨を説明している。	終末期の介護については事業所としてできる限りの支援はするが、重度化した場合には医療機関での対応となることを家族に説明しており、日頃から協力病院の看護師に助言を受けるなど連携をしながら支援にあたっている。また、急変などに備え緊急時対応を学習会のテーマにして、職員間の共有に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内においても学習の機会を設けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナ感染予防の為、今回は消防署の立会いは中止したが、定期的に防災訓練を実施している。	年2回、夜間想定で地震による火災想定も含め避難訓練を実施しており、必要な情報を記載したネームプレートを居室入り口に用意し、避難の際利用者の首にかけてもらい避難状況や本人確認ができるよう工夫している。また、近隣の住民に対しては利用者の見守りを依頼している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の思いや訴えを否定せず共感し、傾聴している。(その場も考慮しながら)また、過ちについても指摘せず、自らが気づけるよう導いている。	利用者の気持ちを聞くときなどは、他の人に聞かれないよう配慮しており、また、利用者が何か失敗した時などには、本人の行動を一時的に否定するような対応は避けるよう努めている。申し送りの際には、具体的対応で気付いた点などを伝えるとともに、介護記録に記載し職員間の共有を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉が表出しやすいように支援している。(せかさない・繰り返し聞く等)言葉で表出できないような場合では、入居者の態度・表情より意思を汲み取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人に対して、過ごし方等を問いかけて活動を決定するようにしている。集団活動を強要していない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自主性を尊重しながら、一人一人に応じた身だしなみ・おしゃれの支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の能力に応じて、テーブル拭き・配茶・下膳に参加している。また、「いただきます」「ごちそうさまでした」の号令を順番で言っている。	週5日は業者の献立で、週2日は管理者が献立を考え職員が交替で調理し提供しており、誕生日や季節に合わせた行事食、時には庭で収穫した果実などを提供している。可能な利用者にはテーブル拭きなど手伝ってもらうほか、声出しを順番で行ってもらうなど、雰囲気作りにも心がけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	外部の栄養士による献立にて食事を提供している。一人一人の能力に応じて、食事内容も調理・介助している。水分確保においても、適量を摂取できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人一人に応じた口腔ケアを行っている。夕食後には、入れ歯洗浄剤にて入れ歯の管理をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレで排泄が行えるように、定時及び随時にトイレ誘導し介助を行っている。夜間にオムツを使用している入居者も日中はオムツを外している。一人一人の排泄パターンや習慣を把握し対応している。	利用者それぞれの排泄パターンを把握し、その上で利用者の雰囲気や習慣に応じてトイレ誘導を行い、トイレでの排泄ができるよう支援しており、介助が必要な利用者に対してはその状態に応じて便座に座るまで介助し、後はカーテン越しに見守るなどの対応を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人の排泄状況を把握し、日頃より水分摂取・運動・食事内容等により便秘の予防に配慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望やタイミングに合わせてゆっくり入浴を楽しめるように支援している。	週2回は入浴できるよう支援しており、入浴1名、着脱1名、誘導1名で介助にあっている。職員は介助しながら一緒に歌を歌ったり昔の話や行きたいところ、食べたいものを聞いたりなど会話を多くし本人の思いを聞く機会としており、また、入浴剤やゆず湯なども用意し入浴を楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣を考慮したり、安眠や休息が取れるように支援している。(寝具等の調節も含む)また、眠気や要休息等の状況にも随時、安眠・休息等の支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬状況が把握出来るようファイルにしてある。また、適切に服薬出来るよう常に複数名で介助を行っている。体調面の変化も常時、観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人が何らかの役割が持てるよう支援している。活動後賞賛し喜びが得られるよう対応している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の希望により散歩の機会を多く取り入れている。現在は、新型コロナウイルス感染症予防のため外食は、出来ていない。	コロナ禍で季節に応じた外出はできない状況にあるが、散歩は週4日は出掛けられるようしており、また、事業所内の駐車場でお茶や体操、ボール遊びを行ったり、ペランダから花など外の景色を眺めてもらったりして、外気に触れられるよう支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者より金銭を所持したい意思があれば家族と相談し、所持を援助している(少額)。現在は、外出出来ないのとお金を使える機会がない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望により電話の使用を援助している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや玄関に花が生けられている。季節に応じて貼り絵や塗り絵を壁面に飾ったりもしている。外の景観を楽しめる環境になっている。快適な環境で過ごせるよう随時、換気、加湿調整も行っている。	温かい雰囲気を感じられるよう廊下やホールには利用者を描いた職員の絵や手作りの飾り物がされ、訪れた人に利用者の様子を知ってもらえるよう誕生日や行事の写真が掲示されている。換気や手すりなどの消毒も徹底しトイレや浴室はこまめに清掃するなど、清潔な環境となるよう努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人が和室・ホールにて思い思いに過ごしたり、数カ所のソファでも自由に過ごしたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や調度品等が持ち込まれている。入居後の趣味活動の作品を飾ったりもしている。	ベット、クローゼットは事業所が用意しているが、利用者がくつろげるよう使い慣れた家具などが持ち込まれ、家族の写真や利用者の趣味の俳句などが飾られている居室もあるなど、利用者の気持ちに添った居室づくりに配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の動作能力を活かせるようにしたり、転倒等の事故を予防したり、安全に配慮した環境作りに配慮している。		